

エスティマハイブリッド(AHR20W)

ブレーキフルード交換要領

■ 適応車種: エスティマハイブリッド(AHR20W)

■ 適応年式: 平成 18 年 6 月～

G-scan を使用して行なうエスティマハイブリッド(AHR20W)のブレーキフルード交換要領を記載しますので、参考にしてください。



※注意※

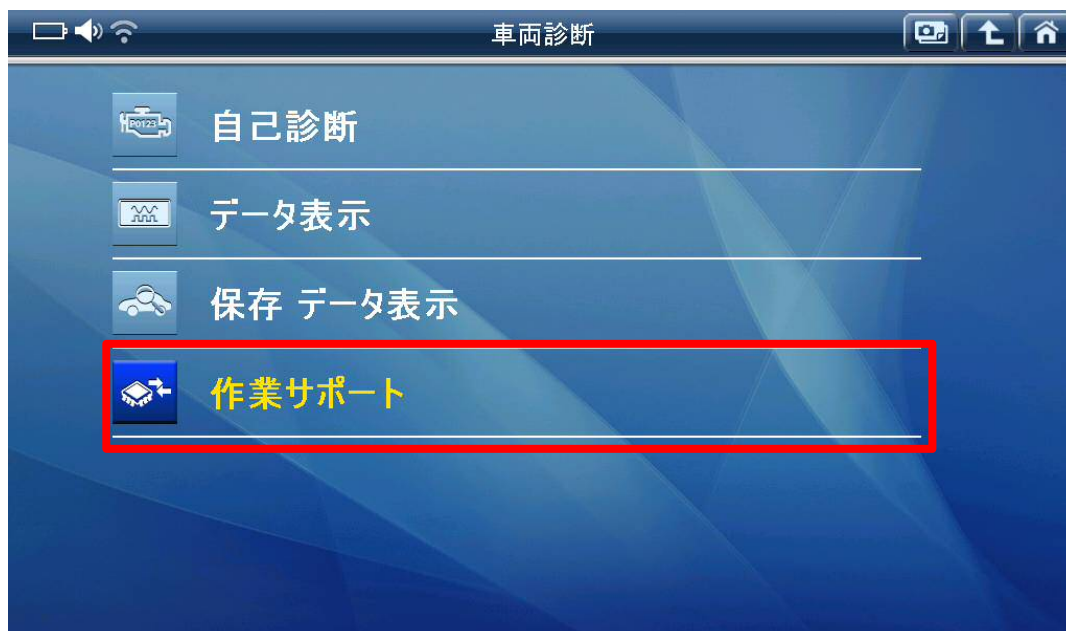
- ・ブレーキフルードの交換は車両停止状態、車両が正常な状態(ウォーニングランプ消灯時、故障未検出時)で実行してください。
- ・エア抜きを行う際はシフトレバーPレンジでパーキングブレーキを効かせた状態で作業を行なってください。
- ・エア抜きはエアが完全に抜けるまで行なってください。エアが完全に抜けていないと車両に悪影響を及ぼすだけでなく、ブレーキ回路に支障をきたし、正常なブレーキ操作ができなくなり、交通事故を引き起こす原因となります。
- ・交換中はリザーバタンク内のブレーキフルードが常にリザーバタンクを満たしている状態にしてください。

ブレーキフルードの交換要領

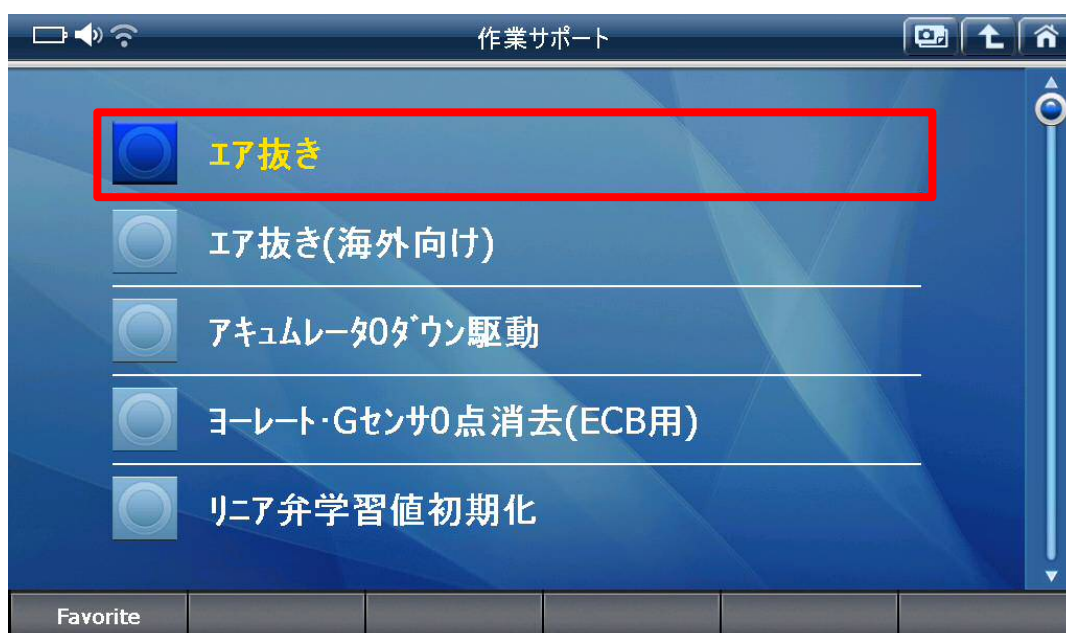
1. ブレーキフルードをリザーバタンクの MAX ラインまで補充してください。
2. プッシュスタート SW が OFF の状態で、G-scan を DLC3 コネクタ(OBD16 ピン)に接続してください。
3. プッシュスタート SW を ON にしてください。

4. G-scan の電源を ON にして車種、システムを選択してください。選択するシステムに関しては『ABS/VSC』又は『ABS/VSC/ARS』を選択してください。

5. 診断メニューにおいて、『作業サポート』→『エア抜き』の順番で項目を選択してください。エア抜き項目が表示されます。

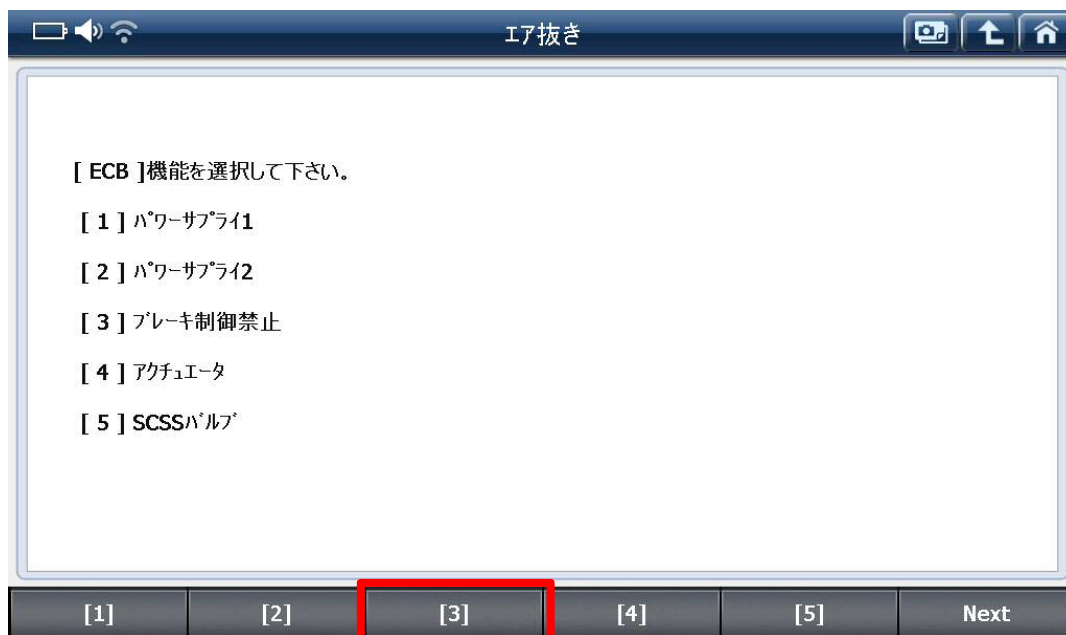


〈図: 作業サポートを選択〉

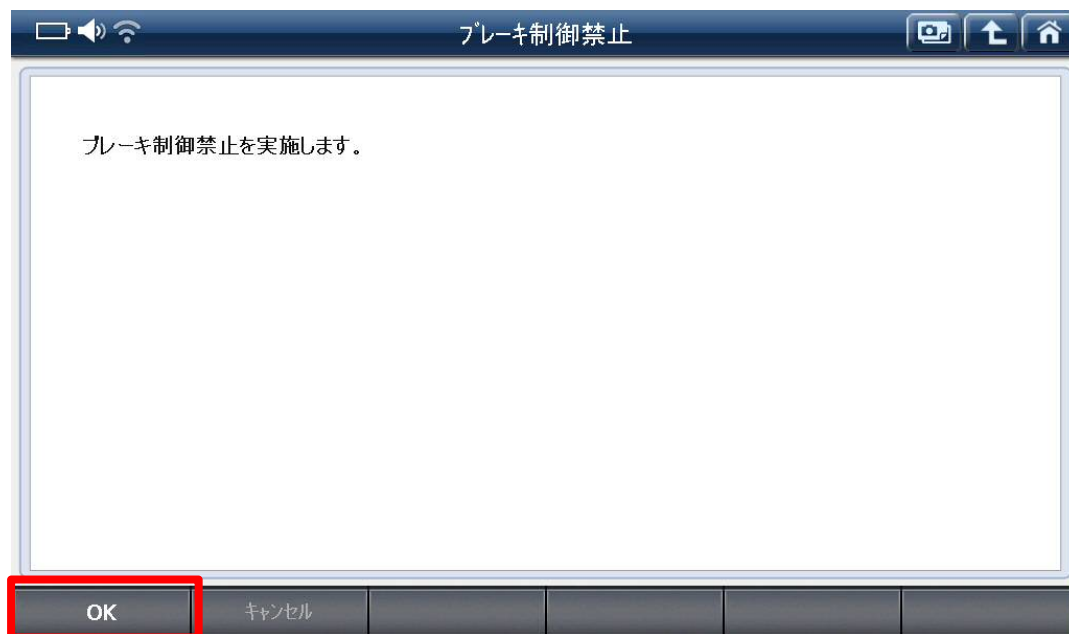


〈図: エア抜きを選択〉

6. 『ブレーキ制御禁止』を選択して、実行してください。



〈図:ブレーキ制御禁止を選択〉



〈図:ブレーキ制御禁止を実行〉

7. ブレーキペダルをペダリングし、フロント右、左のブリーダプラグよりエア抜きを行なってください。

※注意※

- ・エア抜きはエアが完全に抜けるまで繰り返し行なってください。
- ・エア抜きは右、左の順に行なってください。
- ・ブリーダプラグの締め付けトルク： 8.3N・m {85kgf・cm}

8. G-scan で実行した『ブレーキ制御禁止』を解除します。



〈図: ブレーキ制御禁止の解除〉

9. G-scan の診断メニューにおいて『自己診断』を選択して記憶された故障コードを消去してください。

10. G-scan の診断メニューにおいて『作業サポート』→『エア抜き』の順番で項目を選択し、最後に『ブレーキ制御禁止』を選択し、再度実行してください。

11. ブレーキペダルを踏み込んだ状態で、ポンプモータおよびソレノイド駆動中にリア左のブリーダプラグよりエア抜きを行なってください。エア抜きはブレーキペダルをペダリングせず、踏み込んで保持した状態で行なって下さい。

※注意※

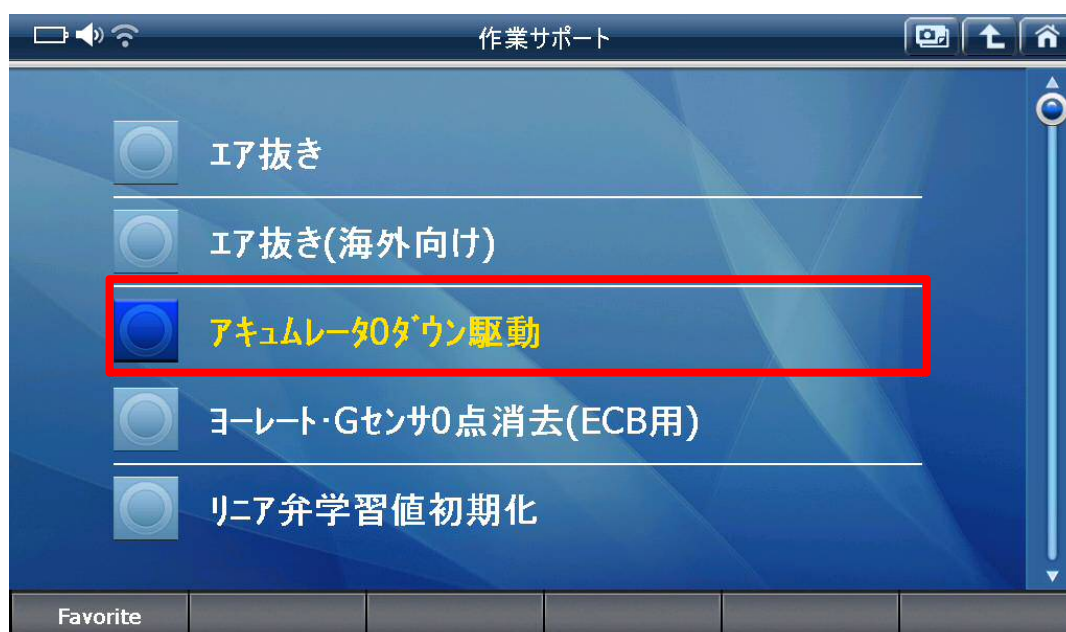
- ・ソレノイドの駆動は約 30 秒を目安にして、ペダルを離して停止してください。
- ・エア抜きはエアが完全に抜けるまで繰り返し行なってください。
- ・エア抜き中に ECB ウォーニングランプ点灯、ブザーが鳴りますが異常ではありません。
- ・ブリーダプラグの締め付けトルク： 10N・m {102kgf・cm}

12. ブレーキペダルを踏み込んだ状態で、ポンプモータおよびソレノイド駆動中にリア右のブリーダプラグよりエア抜きを行なってください。エア抜きはブレーキペダルをペダリングせず、踏み込んで保持した状態で行なって下さい。

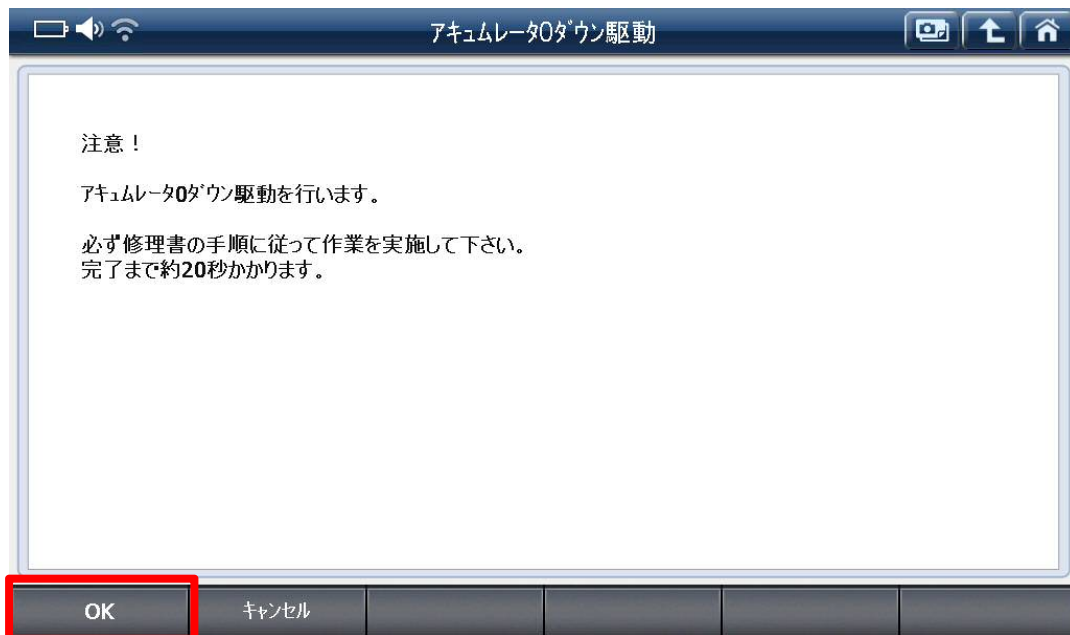
※注意※

- ・ソレノイドの駆動は約 30 秒を目安にして、ペダルを離して停止してください。
- ・エア抜きはエアが完全に抜けるまで繰り返し行なってください。
- ・エア抜き中に ECB ウォーニングランプ点灯、ブザーが鳴りますが異常ではありません。
- ・ブリーダプラグの締め付けトルク： 10N・m {102kgf・cm}

13. G-scan の診断メニューにおいて『作業サポート』→『アキュムレータ 0 ダウン駆動』の順番で項目を選択し、『アキュムレータ 0 ダウン駆動』を実行してください。



〈図:アキュムレータ 0 ダウン駆動を選択〉



〈図：アキュムレータ0ダウン駆動を実行〉

14. ブザーが鳴ることを確認した後、プッシュスタート SW を OFF→ON してください。
15. 13、14の作業を 5 回繰り返してください。
16. リザーバタンク内のブレーキフルードが MAX レベルになるようフルード量を調整してください。
17. 最後に G-scan の診断メニューにおいて『自己診断』を選択して記憶された故障コードを消去してください。